

2015

特定非営利活動法人 **Future Code**

活動報告書



Bridging to the future for global health

2016年 4月25日

Haiti

2015年4月－5月 無料結核検診

2013年6月に開始した住民無料結核検診を本年も開催。



検診では結核の患者だけでなく、気胸を起こした患者なども見つかっています。今回の検診でも、2012年に日本の兵庫医科大学を中心とした研修プログラムを受けたジャッセン医師とパスカル医師も参加し、今回もリスクの高い住民を中心に93名をスクリーニングし、うち15名には症状とレントゲン所見から結核を強く疑う患者を含め、異常を認めており、精査しています。



特に検査結果に異常の見つからなかった人も、結核などの病気を心配して訪れており、今のところ検査では問題は認めないことを伝えると、とても喜んで帰っていく姿も多く見受けられました。このような効果は、決してデータにはあらわれることはありませんが、現場ではやはりこのような体験から、検診の必要性を感じます。



今後も定期的な検診の開催を予定しています。

2015年12月 孤児院 歯科検診と診療

2015年2月から開始している本プロジェクトを再度行いました。

ハイチでは歯にトラブルを持つ人は多く、しかしながらこの問題は孤児院や貧困のある地域では無視されがちです。今回は孤児院で一般の方を含む76名を検診し、歯の修復や抜歯などの治療を行いました。

今後もこのプロジェクトは定期的な開催を目指し、孤児院に対しては食糧支援も含め、現地の希望に応じた支援を継続していく予定です。



Bangladesh

2015年4月－9月 看護師育成プロジェクト

バングラデシュ国内の政治的な影響により、デモや交通封鎖等が生じたため、看護師育成プロジェクトは2015年1月から一時活動を中止しておりましたが、国内の交通封鎖等の緩和を受け、4月から現地病院側と再開協議を行い、無事再開することができました。



5月末より日本人看護師をバングラデシュの病棟に派遣し、現地ボランティアの協力の元、病棟での実技指導を中心としたプロジェクトを開始しています。

今回、再開にあたり、この一時中断していた期間にプログラムを再度見直し、実技指導をより中心に再編。また病院のスタッフ全員が現場を改善していくという目標意識を持つため、まず日本人看護師と共に1週間に数回、現場を見回り、その際、気付いた点、改善したほうがいい点をレポートします。そして改善点について、ICUにいるスタッフ全員が情報を共有し現場を改善するという目標に向かい、そして意識することによりさらなる改善につながるよう努力しています。

以前5S（整理、整頓、清潔、躰、清掃）で学んだ「ベッドサイドモニターコード整備」がテーマとなりました。5Sをしっかりと実践するには、ただ「きれいにする」という事ではなく、根本的には「考えて機能的にする」という意識の改善が求められます。

またベッドサイドでの看護実習を強化。効果的な体位変換、体位ドレナージなども実際にベッドサイドで実習しました。



正式にプロジェクトを開始した1年4か月前と比べると、かなり雑然としていた場所も整理され、改善されたこともあります。

しかし少し忙しくなるとすぐに呼吸器のアラームへの対応の遅れなども見られ、まだまだ多くの課題はあります。

レクチャーの中でも、現地看護師教師や生徒に実際に患者役に協力してもらい、効果的な患者さんの体位移動なども実際に皆で実習しました。



9月 記述試験と実技試験

2014年4月からの講義と実習などを通して勉強してきた知識と技術を確認するために、記述と技能のテストを実施しました。基礎的な部分を中心とした試験で、病院からこの試験の実施の依頼もあり、今後これもプログラムの一つの達成すべき課題として企画されることとなりました。やはり彼ら自身が自分で考え、努力してこれを達成する、という課程も学びの中では非常に重要な要素であります。

この試験では「日本式」の試験環境を導入し、私語禁止、携帯禁止、机の上に筆記用具のみというルールを実施。

彼らの今まで学んだ知識、そして技術を各個人に対して評価し、その結果から弱点を自覚してもらいながら今後それを改善していくことに取り組みます。



記述試験のあとは、技術のチェックに移ります。課題には「基礎心肺蘇生法」「輸液ポンプの使用法」「適切な手指衛生」の三項目を実施しました。

技術に関して、基本的な事ではありますが、基本的な事をきっちりと実行できることも大切です。

彼らの普段の仕事の中の必要な技術で、何気なくいつも大雑把に対応され、無視されてしまう事もありますが、ここの基礎をきっちりと意識してもらうために、技術を一つ一つチェックします。



これらはすべてのこの ICU の看護師 62 名に対して、個別に行われました。
これらの試験の結果を受けて、クラス全体としての評価と、各個人それぞれの結果を分析し、適切な知識と技術が提供できるように取り組みました。

試験後の企画として、クラス全体の正答率が悪かった問題や、技術として全体的にレベルアップが必要な項目をリストアップし、解説のためのレクチャーを企画し、改善に取り組みます。試験問題で特に重要な点や、正答率が低い問題の解説のため、さらにレクチャーを行いました。





看護師育成プロジェクト第一期終了セレモニー

第一期として企画された全プログラムが終了し、セレモニーを CMH (Military Combined Hospital) にて開催。

プログラムを終了した生徒たちに、今後の彼らがよりよい医療を行っていく事を願い、終了証が授与されました。

また、これからもバングラデシュの看護師教育改善に向け、病院側とも協力と連携を確認しました。





※2015年10月、バングラデシュ国内での邦人を含む支援関係者の殺害事件が発生。また、IS（イスラム国）が犯行声明を発表。さらにISが機関誌にてバングラデシュ国内で日本人をターゲットとしてテロを起こしていく方針を発表したため、活動の安全性を考慮し、2015年10月より一時的にバングラデシュ国内での活動を停止しています。今後、現地日本大使館と情報共有を行いながら、安全を第一に活動再開を検討しています。

Japan

2015年11月

神戸グローバルチャリティーフェス参加

神戸海星女学院で開催されました神戸グローバルチャリティーフェスに参加し、来場いただきました多くの方に活動紹介と活動報告を行いました。

地域からいただきました支援がどのように現地に直接届けられ、支援につながっていくのかを説明。今後とも日本の地域の声を大切にしながら、活動を続けていきたいと思えます。





2015年12月

外務省主催 「カリコム若手外交官招へい」 歓迎レセプション

参加

ドミニカ大使をはじめ各国の若手外交官に Future Code の活動を説明するとともに、両国をはじめカリブ諸国の友好と支援活動の必要性について意見を交わしました。カリブ諸国、外務省等、官民の連携をより深めつつ、支援を必要としている現地の方々に直接的かつ効果的な支援活動を続けます。



2016年1月

Future Code 活動報告&講演会を開催（神戸市御影にて開催）

神戸市御影にありますアビエスフィルマというサロンにご協力いただき活動報告と講演会を開催しました。たくさんの方々また、業種も様々な方が集まっていただきました。

今回はバングラディッシュの看護師育成プロジェクトで活動した看護師スタッフも登壇し、現場での経験や、活動するにあたっての想いが語られました

また今後の私たちの活動の方向性や、私たち市民が参加する国際協力とはどのようなものなのか等を含め、今後世界がどのように動いていくのかを話させていただきました。

参加していただいた方からは「スピーチに体験がぎっしりと詰まっていて、とても良かった」等のお言葉を多数頂き、このような活動も継続していきたいです。





その他各種講演会・特別講義

・特別講義

2015年6月

関西学院大学 社会学部にて特別講義を担当（6月と10月）

私たちの活動の話だけでなく、学生様たちにも質問を投げかけ考えていただきながら、これまでの世界の貧困や保健の現実から、2030年に向けた国際機関の貧困や感染症の撲滅計画といった国際保健についてもお話しさせていただきました。



2015年10月

今回は Future Code の活動や国際保健の話だけでなく、自身の英国での大学院の経験なども踏まえ、これからの日本がよりグローバル化していく中で、必要とされる人材にはどのような視点と思考が求められるのか、といった事にも言及し、学生時代に備え始める大切さを語りました。



2015年12月

流通科学大学にて特別講義を担当

海外での活動の話だけでなく、自身の大学院での体験なども踏まえ、私たち日本人も考えていくべき部分や、必要な考え方、そしてこれから **Future Code** が向かう方向等も語られました。学生さまたちにとって少しでも興味を感じてもらえるよう引き続きこのような活動をしていきたいと思えます。



2016年2月

豊中市立上野小学校にて特別授業を担当

豊中市立上野小学校にて200名の6年生に向けて特別授業をFuture Codeが担当させていただきました。

私たちがこの活動をする事となったきっかけや、助け合いの大切さ、そして他の国で生活する12歳の少年の話为例に、文化の違いや「考えて行動する」事の重要性を伝えました。

またこの授業のあと、子供たちからたくさんの感想文や質問を頂きました。

今、子供たちが考えている事や興味を持っている事、そして世界に対して考えた事など、私達にとってもとても興味深いもので、この機会から逆に私達がたくさん学ぶ事もありました。この様な日本での活動にもとても大切な意味を感じ、これからも積極的に行動したいと思います。





・その他講演会

2016年3月国際ロータリー第2680地区 地区大会"青少年の集い"

中高生を含む来場者約200名に向けて代表 大類が「考える力と行動力で切り拓く未来の話 グローバル社会の中で」というタイトルでメインスピーカーを担当。